

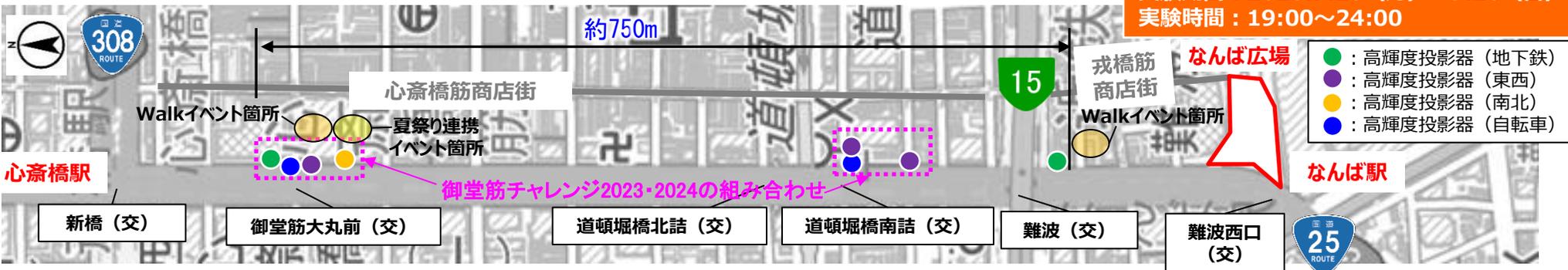
# 2025年度御堂筋サテライトプラン 効果検証

近畿地方整備局 大阪国道事務所

# 1. 2025年度御堂筋サテライトプラン 社会実験計画

- ・大阪市では、大阪・関西万博のサテライト会場として、御堂筋において「2025御堂筋サテライトプラン」（2025.4.13～2025.10.13）を実施した。花飾り・バナー等の常設企画の他に、大阪ウィークとして、「フラワーカーペット（2025.5）」、「夏祭り（2025.7）」、「ウォーキングイベント（2025.9）」には、期間限定の取組を実施。
- ・**オーバーツーリズムによる「歩行空間の混雑緩和の対策」、「歩道・自転車道の空間分離」として、「心斎橋駅」～「なんば駅」に投影機を設置し、路上にプロジェクションマッピングの技術等を活用した歩行者・自転車案内の実装に向けた実証実験**を実施。

実験期間：2025.7.28（月）～9.28（日）  
 実験時間：19:00～24:00



- 高輝度投影機（地下鉄）
- 高輝度投影機（東西）
- 高輝度投影機（南北）
- 高輝度投影機（自転車）

## 投影内容①

### 歩行者案内（地下鉄・東西・南北）

## 投影内容②

### 自転車走行位置明示

### 路面投影状況



- 2025年度 投影内容の仕様
- 高輝度投影機（静止画）
  - 表示内容切替
  - 「多言語対応」、「駅・観光地（道頓堀）」、「方位」を表示
  - 白抜きで目立たせる



2025年度 投影内容の仕様

- 最も効果が高かった「青色」で実施

# 2. 効果検証結果概要

・今年度は「歩行空間の混雑緩和」および「歩道・自転車道の空間分離」を目的として、プロジェクションマッピングを活用した路面案内を実施。路面案内により期待できる効果が実現できたか各種調査を組合せて検証した。検証結果は下記のとおり。

項目	歩行空間の混雑緩和		歩道・自転車道の空間分離	
地域課題	オーバーツーリズムによる外国人旅行者の歩道空間での滞留（道迷い）		オーバーツーリズムによって歩行者が増加したことによる自転車通行ゾーンの歩行者の利用	
プロジェクションマッピングにより期待できる効果	道に迷う人やスマホを見る人の減少 地下鉄出入口付近の滞留人数の減少		自転車道を通行する歩行者の減少	
観点	コンテンツの視認性・適切性	道迷いの人数	コンテンツの視認性・適切性	行動変容の有無
検証手法	アンケート調査	ビデオカメラ調査	アンケート調査	3D-LiDARによる調査
検証結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人、日本人共に路面案内の色や文字の大きさ等の視認性は高評価</li> <li>外国人・日本人共に表示した情報は十分であり適切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心齋橋エリアは実証期間中の道迷いが減少</li> <li>なんば駅エリアは実証期間中の道迷いが増加</li> <li>※シルバーウィークによる観光客増加の可能性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人・日本人共に路面案内の意図を理解</li> <li>外国人・日本人共に行動変容の意思を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証期間中は自転車と歩行者の錯綜回数が減少</li> <li>心齋橋エリアは北進方向、道頓堀エリアは南進方向の錯綜回数が大きく減少</li> </ul>

# 3. 効果検証結果(歩行空間の混雑緩和)【視認性・適切性】

- 路面案内の色や文字の色が見やすいか調査した結果、外国人の9割以上、日本人の8割以上が見やすいと回答
- 路面案内で表示した情報が十分であったから調査した。その結果、外国人・日本人共に9割以上が表示した情報が十分だと回答した。昨年度の表示内容に対して、「多言語対応」、「駅・観光地(道頓堀)」、「方位」の表示を追加したことによる効果と考えられる。

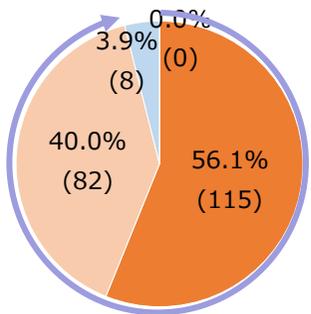
## 街頭アンケート(外国人) 概要

**概要:** 外国の方を対象に、現地にてコンテンツの効果をアンケート形式で聞き取り  
**場所:** 心斎橋エリア、道頓堀エリア  
**日時:** 2025年8月1日(金)、8月29日(金)、9月22日(月) 19時~22時  
**サンプル数:** 205 (希望言語 英語54%、中国語44%、日本語2%)

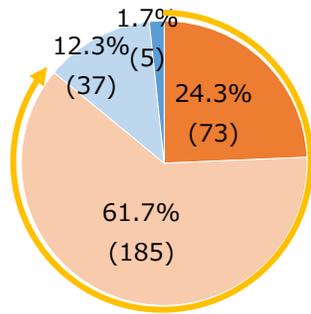
## Webアンケート(日本人) 概要

**概要:** 御堂筋で当該コンテンツをみた日本人を対象にWeb形式のアンケート実施  
**場所:** 全箇所  
**日時:** 8/4(月)、9/1(月)、9/24(水) にアンケート配信  
**サンプル数:** 300 (大阪府外に居住する日本人)

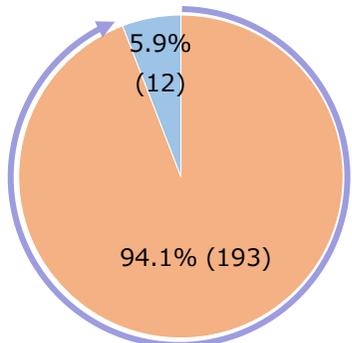
### 路面案内の色や文字の大きさはいかがでしょうか？



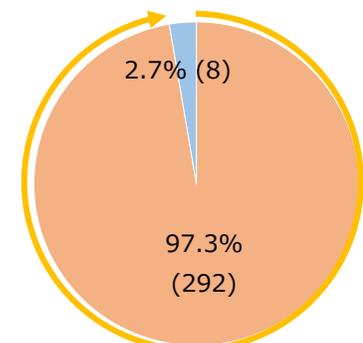
■ とても見やすい  
■ 見やすい  
■ 見にくい  
■ とても見にくい



### 路面案内で表示した情報は十分でしたか？



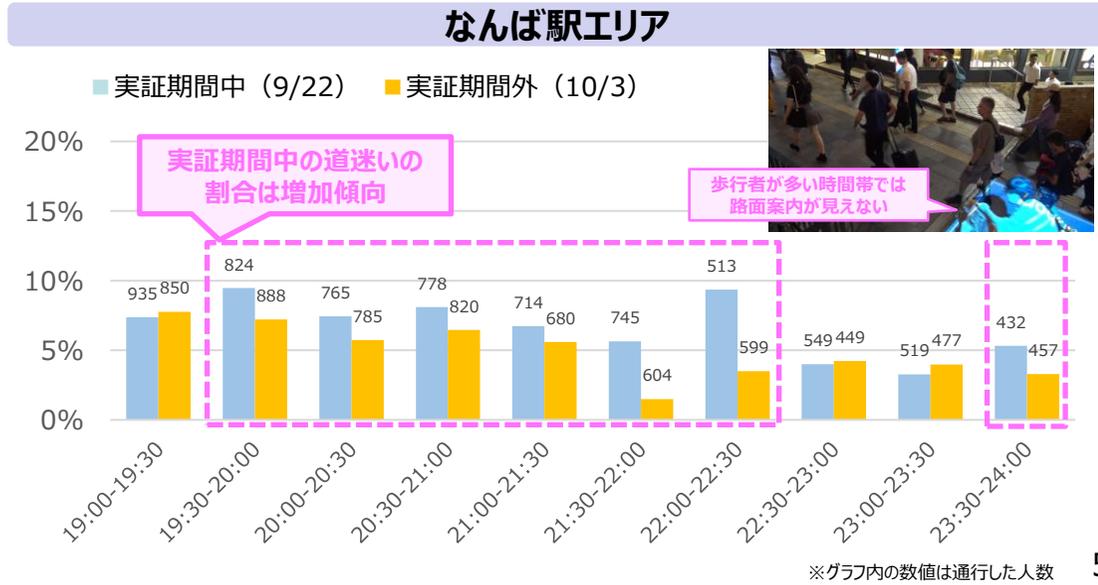
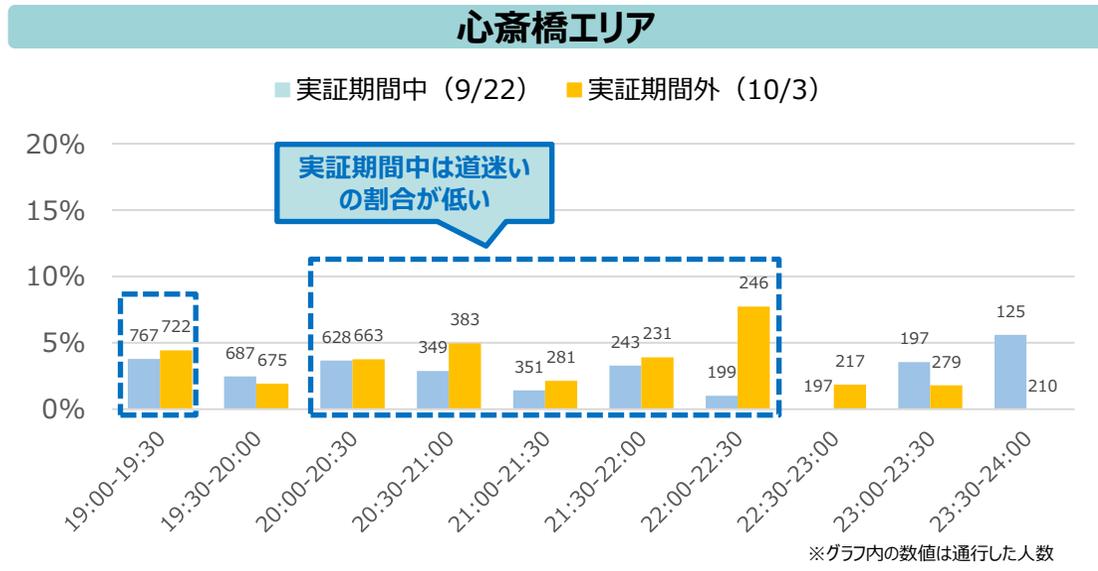
■ 十分だった  
■ 十分ではない



# 3. 効果検証結果(歩行空間の混雑緩和)【コンテンツの認知・道迷いの人数】

- 道迷いの人数を分析した結果、心齋橋エリアは、**実証期間中の道迷いの人数が実証期間外と比較して減少**。
- なんば駅エリアは実証期間中の道迷いの人数が増加。歩行者交通量が多い場所では路面案内が見えず、効果が半減した可能性。

**概要**：地下鉄出入口でビデオ撮影し、道に迷っている人を目視で観測  
**場所**：心齋橋駅地下鉄出入口（心齋橋エリア）  
 なんば駅地下鉄出入口（なんば駅エリア）  
**日時**：【実験期間中】9月22日（月）19：00～24：00  
 【実験期間外】10月3日（金）19：00～24：00



# 3. 効果検証結果(歩道・自転車道の空間分離)【視認性・適切性】

- 歩道・自転車道の空間分離にあたっての路面案内の視認性・適切性を調査した。その結果、プロジェクションマッピングを活用した路面標示の意図は**外国人・日本人共に約8割が理解**できていた。
- 路面標示を見たことで、**外国人の約9割、日本人の約7割が自身の通行位置を変えよう**と思っていると回答。

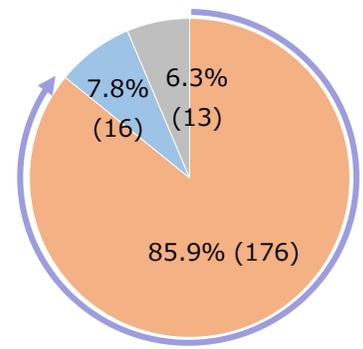
## 街頭アンケート (外国人) 概要

**概要**：外国の方を対象に、現地にてコンテンツの効果をアンケート形式で聞き取り  
**場所**：心斎橋エリア、道頓堀エリア  
**日時**：2025年8月1日（金）、8月29日（金）、9月22日（月）19時～22時  
**サンプル数**：205（希望言語 英語54%、中国語44%、日本語2%）

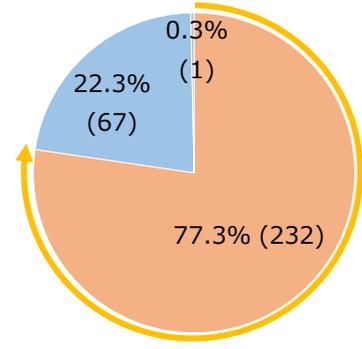
## Webアンケート (日本人) 概要

**概要**：御堂筋で当該コンテンツを見た日本人を対象にWeb形式のアンケート実施  
**場所**：全箇所  
**日時**：8/4（月）、9/1（月）、9/24（水）にアンケート配信  
**サンプル数**：300（大阪府外に居住する日本人）

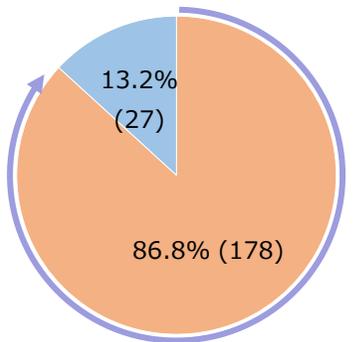
自転車の通行位置を示す路面標示の意図を理解できましたか？



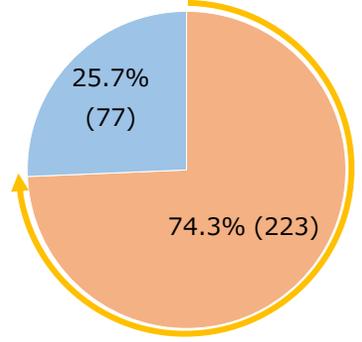
■ コンテンツを見て理解できた  
■ コンテンツを見たが理解できなかった  
■ 見ていなかった・気づかなかった



自転車の路面標示を見たことで、自身の通行位置を変えようと思えますか？



■ 変更しようと思う  
■ 変更しないと思う



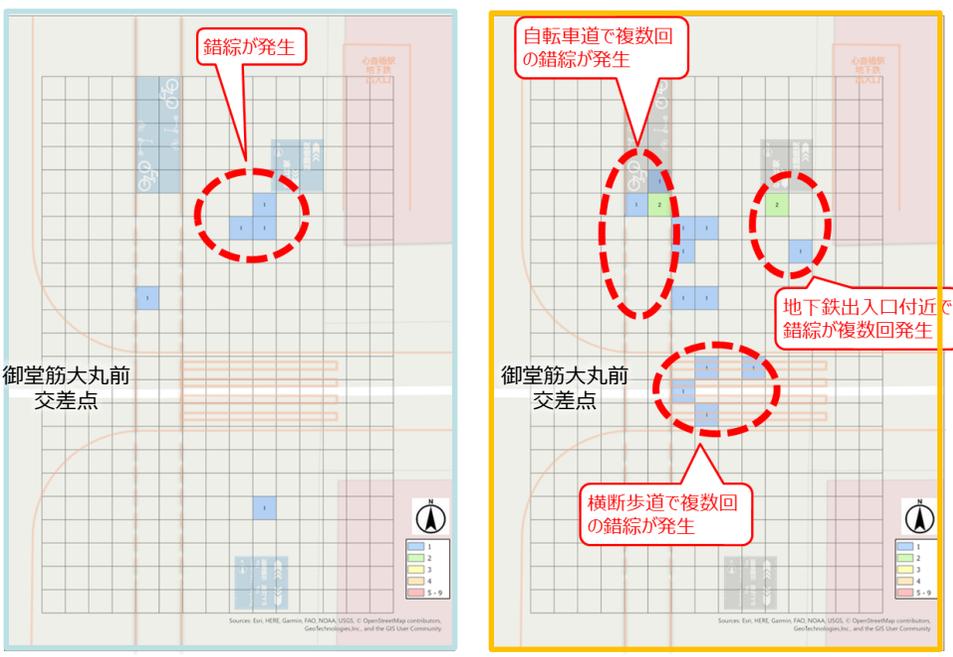
# 3. 効果検証結果(歩道・自転車道の空間分離)【行動変容の有無】

- 心齋橋エリアは、実証期間外は自転車通行ゾーン、横断歩道に加えて、地下鉄出入口付近で複数回の錯綜が発生。一方、実証期間中は歩行者向けの行先案内により地下鉄出入口付近での滞留が削減され、自転車と歩行者の錯綜回数が減少
- 道頓堀エリアは、実証期間外は自転車通行ゾーンで錯綜回数が複数回発生し、歩道においても錯綜が発生。実証期間中は自転車通行ゾーンでの錯綜回数が減少し、歩道では錯綜が発生していない。

**概要：**道路上に3D-LiDARを設置し、歩行者および自転車の通行位置を計測することで、歩道・自転車道の空間分離が図られているか検証  
**場所：**御堂筋大丸交差点付近（心齋橋エリア） 道頓堀橋南詰交差点付近（なんば駅エリア）  
**日時：**【実験期間中】9月22日（月）19：00～22：00 【実験期間外】10月3日（金）19：00～22：00  
**分析方法：**同一時刻（1秒単位）に同一メッシュ（1.2m四方）内に歩行者と自転車が存在した場合に錯綜したと定義し、錯綜した回数を集計

## 心齋橋エリア

歩行者の進行方向：北進 自転車の進行方向：北進

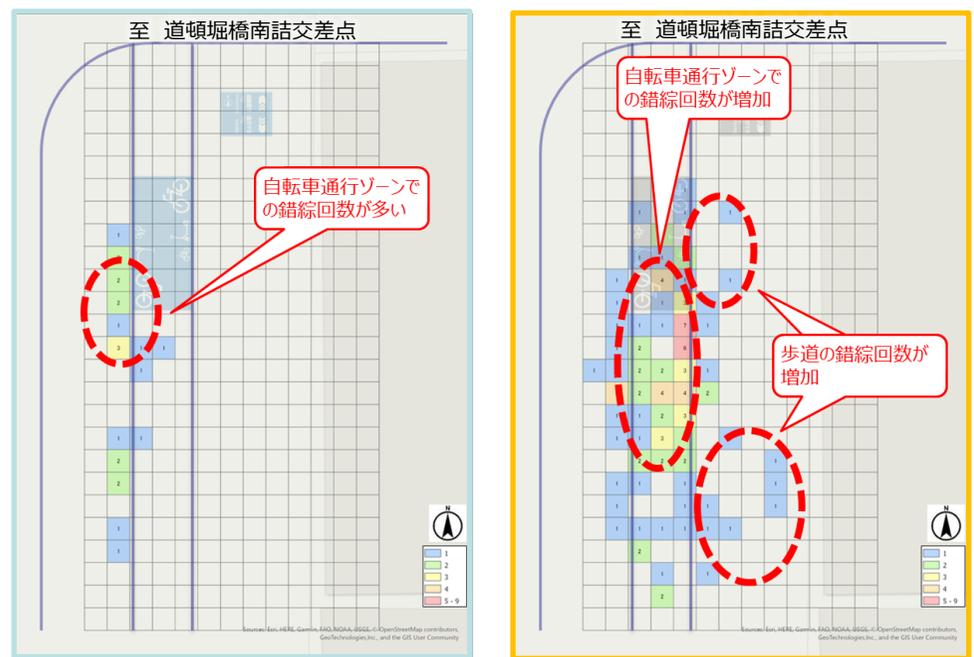


実証期間中 (9/22)      実証期間外 (10/3)

図 実証期間外の自転車と歩行者の錯綜回数（19～22時台）

## 道頓堀エリア

歩行者の進行方向：南進 自転車の進行方向：南進



実証期間中 (9/22)      実証期間外 (10/3)

図 実証期間外の自転車と歩行者の錯綜回数（22時台）